

入佐君を想う

伊地知 龍清 (3組)

鹿児島での「玉龍八期会・五十周年記念同窓会」への参加に、入佐君が強い執着を持っていたにも拘らず、病が重く断念せざるを得なかった事を聞いて、会いたい思いが募った。同窓会後の「屋久島旅行」に一緒に参加した大山君と相談し、福岡天神の病院に向かった。入佐君はその頃、数ヶ月続いた三十八度を越す高熱で苦しかっただろうに、長患いの寝れなさと微塵も感ぜさせず、爽やかな笑顔で久しぶりの再会をととても喜んでくれた。

病院の談話室で奥様共々四人で病気の経緯、清水小から玉龍高校までの鹿児島時代、会社時代の事、趣味のゴルフや病気になってから始めた絵の事等々、時間を忘れて語り合った。そして我々が彼の疲れを心配するくらい彼もよく話してくれた。

自分の病状を更に冷静に客観的に話し、予断を許さぬ病状を知った上で生きることへの意欲を持ち続ける、その精神力の強さに驚嘆させられた。また現役時代もこの姿勢で目いっぱい働き、余暇を楽しみ、会社でも家庭でも充実した幸せな日々を送ってこられた事が察せられた。もっとも一時退院していた頃のゴルフ場通いの話題では、奥様に優しく叱られてはいたけれど、

約束の面会時間の二時間は瞬間に過ぎて、次春の再訪問を約束して退去する時、お二人にエレベーターの前まで送って頂いたが、ドアが閉まる直前に彼の目に涙が溢れ出ていたのが忘れられない。あれ程強い意志で懸命に闘病を続けてきた彼であったから。

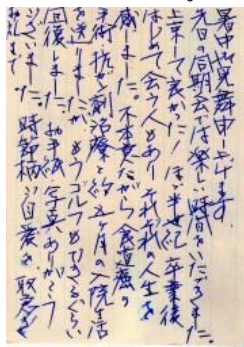
玉龍時代の思い出では何年生の時だったか、学校が午前中で終わって、そのまま入佐・大山君と三人で気の向くままに吉野から寺山へ歩き、眼前間近に悠然たる桜島を一緒に仰ぎ見た事が鮮明に蘇ってくる。夕刻が迫り、帰路は殆ど真下に龍ヶ水に駆け下り、途中、花倉の岩元君の家に寄って、多分彼の勉強を邪魔して帰ったのだと思う。福岡の大学に進んだ彼は寮に入り、部活では水泳部に所属した。夏になると、神宮プールでの大学対抗競技会に出場するため上京し、確か二回ほど、当時、浦和に住んでいた小生の所までわざわざ訪ねてきてくれた。この頃から彼は心身ともに逞しくなっていたように思う。

入佐さんを想う

— 徒然なるまきに —

伊藤 工子 (5組)

「人が死んで後に残るのは集めたものではなくて散らしたものである」最近目にしたお気に入りの言葉である。何を集め何を散らすのか・・・。人それぞれの生き方だと思う。夫が「千の風」になり早五年が過ぎ、主人の魂はどこかの赤ちゃんの魂になれたかある。それとも飲んべえはお呼びじゃなくなてまた天国かなあ〜と思うこの頃である。



一月に亡くなられた入佐さんの奥様とお手紙やお電話で長話しになる。一度もお会いした事はないのに「博多女」と「薩摩おこじよ」の合い通じるものがあり、心地良い。「私も八期会の仲間になったような気分です・・・。納骨前に九十歳過ぎの義母にお別れしてもらうため帰鹿した時、浜崎さんへ電話したら、偶然、八期会の集りに参加させてもらい、とてもうれしかったです」と。「偶然ではないのよ。必然だったのよ。入佐さんも皆に会いたくていらしたのよ」と。

入佐さんが生前、多くの人々の心の中に彼の生き方を「散らし」てゆかれたのだと思う。又、それを黙って支えて来られた奥様も素晴らしいと思う。「やどんなあ、うっかた午前様に部下を連れて帰ったり、二、三十人の客のもてなしも平気でやってくれます・・・」と、二回ほど聞いた。あゝ、向田邦子の世界だなぁ〜と思った。

「奥さんに大当たりでしたネエ〜」と云うと、ニコニコして頷いておられた。

メタボ脱出探戦 (遺稿)

中村 修 (1組)

何をするにもつらいこの体型。特に前屈姿勢は、お腹を圧迫するので苦しい。体重も増える一方で、坂道や階段では、わが身の重さで息が切れそうになり、途中で休憩することも。

この時だけは、この体型と体重を何とかしなくてはと思うのであるが、後はするする。そしていつもの通り、先程の苦しみを完全忘却して日々飲み食い最優先の生活。

今年二月、またまた衣服が窮屈になったので、気になる部位を測ってみた。びっくりしたのは腹囲の数値。念のため体重も測ったら、これもびっくりの数値。折しも四月から健康保険において生活習慣病原因となるメタボリック症候群に対して、特定保健指導が始まるという。診断基準の自己判定では私の場合、りっぱなメタボリック症候群のようであるが、保健指導の対象にでもなったら《わすらわしい》ことなので、絶対イヤであった。そこで、一念発起。メタボ脱出のダイエットを始めてみることにした。

まず毎日二、三缶飲んでいたビールをやめた。次に二週間後位から肉類と揚げ物を極力避けるようにした。現在の私の食事の主役は知人が勧めてくれた、まずい「脂肪燃焼スープ」である。このスープは食べれば食べるほど体重が落ち、材料も玉葱、ピーマン、セロリなどのいつでも手に入る野菜類。しかも家庭で簡単に作れるので、私は朝夕食には必ず食べるように努めている。ダイエットを失敗するほとんどの例が空腹に耐えかねてのことらしいが、私も何度も挫折しそうになった。しかし、健康のためとはいえ人生果てるまで好きな食べ物を絶ち続けるのも悲しいことだと思っている。

五十年前の体型には及ばなくても一日も早くメタボ脱出探戦を終了して、腹いっぱいビールと焼肉にありつきたい。

